



宇久中学校だより

海原

ふるさとを愛し 主体的に学習し 自らの判断で正しく行動できる生徒の育成

令和8年10月26日(月)
第9号
佐世保市立宇久中学校
校長 永山 幹人



宇久中学校HPIは
上の二次元バーコードから



宇久中学校への
ご意見等はこちらから

宇久の伝統を守る！ なぎなた踊りを行いました

なぎなた踊りについて

なぎなた踊りは、秋の大祭の奉納踊りとして本飯良地区の八幡神社に古くから伝わる地域行事で、無形民俗文化財にも指定されています。大太刀を持つ白装束の弁慶と、小太刀を持つ鮮やかな衣装の義経(牛若丸)の二人1組で踊ります。今年も地域の方お二人のご指導を受けながら、約1か月間練習を重ねてきました。

準備開始！まずは衣装替え

給食終了後、本番の衣装に着替えます。先生方や指導の先生は「いざ！」という時にお手伝いするだけで、できるだけ自分たちで着付けができるよう頑張りました。着替え終了後、バスに乗り込み、本飯良の八幡神社へ移動します。

円陣を組んで気合を入れます

開始5分前、緊張のためか、みんな表情が硬いように感じました。そんな時、踊りのリーダーがみんなを集めて円陣を組み、気合を入れました。リーダーは、なぎなた踊りが島の伝統を守るために大切な行事であること、これまで練習を支えあいながら頑張ってきたことなど、仲間の心を打つ内容の話を語りました。この時、みんなの表情が「きりっ」と変わったように感じました。



境内に入場！緊張が走る！

踊り手の生徒たちが、境内に続く小道から息もぴったりに入場してきます。

ここで大変なアクシデントが！

放送設備の調子が悪く、途中で入場のおはやしが止まってしまいました。そんな中、聞こえてきたのは、口笛！機転を利かせた方が、おはやしを口笛で奏でてくれています。おかげで、なんとか入場することができました。

こんなトラブルの中でも、何事もなかったかのように淡々と歩みを進める生徒の姿に、これまで練習を積み重ねた自信を強く感じました。



弁慶と義経の「問答」

入場後、お宮の前では「問答」が始まります。これは、歌舞伎十八番勧進帳の「安宅の関所での問答」が元になっている問答です。弁慶と義経に扮した代表生徒二人が、長くて難しい歌舞伎調の言い回しの問答を立派にやり遂げました。

問答が終わると、いよいよなぎなた踊り「が」始まります。！



伝統の舞 披露

白い衣装で弁慶をイメージした大太刀と、華やかな衣装で牛若丸をイメージした小太刀、二人一組で踊ります。これまで一生懸命練習してきた成果を発表しました。



ふるさとへの思い 強まる！

終了後の感想でなぎなた踊りを通して感じた宇久島への思いを語ってくれました。一部を紹介します。

- ・これからも後輩達に私たちがしたことを繋いでいってほしい。（3年男子）
- ・受け継いできた伝統をこれからもしっかりと守り受け継いでいきたいと思います。（3年男子）
- ・こういう風な宇久島の伝統を中学生の私たちが受け継げる。行えるということに感謝をしないといけないと感じました。当たり前だと思っていたことでも当たり前ではなかったりすること。自分たちは恵まれていると思いました。（3年女子）
- ・宇久島は自分らが育ってきた場所だから、宇久の伝統を大切にしながら自分たちができるものがあるならこれからも受け継いでいきたい。受け継いでいってほしいと思った。（3年女子）
- ・今まで通り、今後も宇久島に貢献できるように頑張りたいです。（3年男子）
- ・親や祖父母が育ってきた宇久島の伝統を引き継ぐということで、自分たちに引き継がれてきた物の大きさと次の後輩へ引き継いでいくという思いが強まった（2年女子）
- ・いままではただの踊りだと思い、あまり宇久島に対する想いもそれほど強いものでもなかったが、先輩や阿野さん、山内さんの指導とかを受けて、宇久島やなぎなた踊りへの想いも強くなり、宇久島の伝統文化を引き継ぎたいという気持ちが強くなった。（2年男子）
- ・宇久島にはまだ伝統があるのでそれがなくならないように受け継いでいきたいです（1年男子）
- ・自分ではなかなか宇久島の行事にいったりしないけどなぎなたをして行事（文化）に参加するのは楽しかったからつぎからは色々行ってみたいと思った。（1年女子）